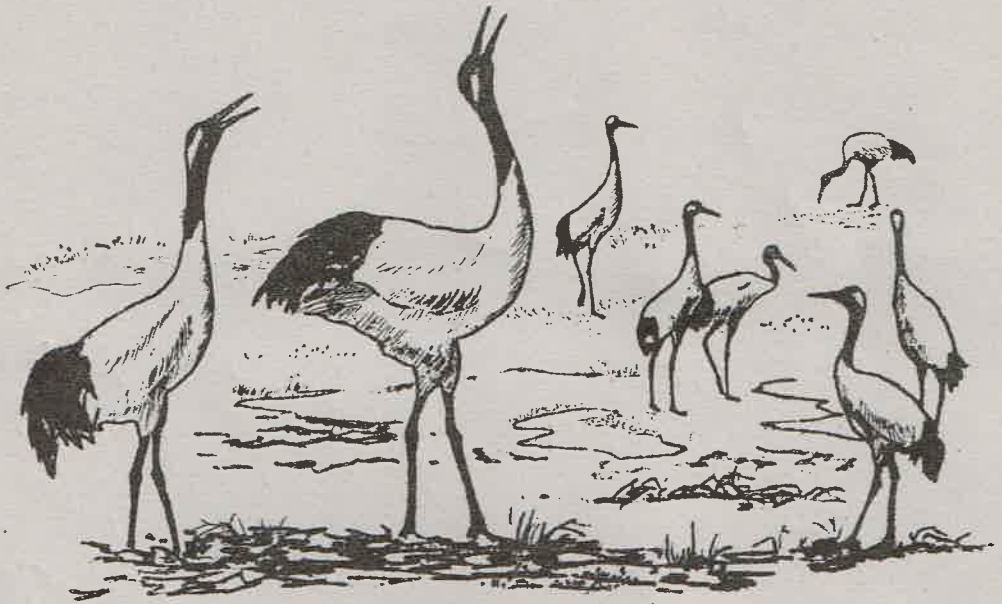


# エゾマツ



No. 51

2000. 1. 15

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## 目

## 次

1. 巻頭言 龍が駆ける2000年  
初春の抱負を大いに語りましょう……会長代行 川端 功治…… (1)
2. 10月以降の活動 …………… (4)
3. 会員の声 …………… (5)
4. 私の一名山「早池峰」……………匿名…………… (9)
5. キーワード「エキノコックス」…………… (12)
6. トリカブトの話 ……………川端 功治…… (14)
7. 本の紹介 …………… (20)
8. 新会員の紹介と会員名簿の訂正 …………… (21)
9. 観察会研修会情報 …………… (22)
10. 編集後記 …………… (23)

〈巻頭言〉

## 龍が駆ける2000年！！

### 初春の抱負を大いに語りましょう

会長代行 川端 功治

明けましておめでとうございます。

会員の皆様方には益々のご健勝で新年を迎えられたことと存じます。

私にも人に負けず劣らずの抱負があって、それは年来の宿願とも言うべき事柄なのです。実はその事は既に小樽の北原武レンジャーが、単独で実施している自然観察会のことなのです。自分でコースを選定して知人やその知り合いを集め、郊外の山野を楽しく歩き、自然愛護の思想の普及に努め、共鳴者グループの多大なる称賛を受けております。

本部としても素晴らしい企画であると認識して、応援の要請があった場合には、アドバイザーの出動をお願いして、対応してまいりましたが、何分にも当会の行事として制度化されていないので、支援が中途半端に終わったことを反省しております。例えばコースの案内図、目に触れる生物のリスト一覧、名所旧跡の解説等は行事を楽しく進めるために、プリント化して配付することは大変に有効な方法だと思います。そして応援に馳せさんずるアドバイザーの交通費、諸雑費等の負担もルール化しておく必要がありますし、傷害保険等も検討事項でしょう。

この方法を拠点方式と仮に呼んで、この拠点が全道的に発生し、ゆくゆくはこの拠点が纏まり、地方毎に統一行動が執られる様に成ったときに支部の成立となる、と言う構想は、手間ぬるい様であっても、当会が全道組織である以上将来に向けて、どうしてもやり遂げなければならない目標であります。

拠点方式は目標達成に長い月日が掛かるかもしれませんが、最も確実な選択肢であるとおもいます。既に活動中の旭川やニセコに加えて、後志、渡島、網走、

胆振、十勝、釧路、日高、の各地から続々と名乗りを挙げて欲しいとおもいます。

ただ注意しなければならないのは、遠隔地はともすれば移り変わりの激しい世相の情報が遅れがちになるために、パイプを太くする必要があります。しかるべき方に委嘱して、ブロック毎に研修会を開催して知識の充実を図るとか、会員同志の意志の疎通に努める等、成すべき事、成さなければならないことが山程あります。

先立つものはなんとやらで、かって民間団体がボランティア活動に対する補助金を支給すると言うので、申請したところ、道庁が育成した自然解説員であるから、道に申請して下さいと断られてしまいました。道は補助金制度の運用に厳しいチェックを受けている最中なので現時点での可能性は残念ながらありません。

最近伝えるところによると、民間で補助金を交付する団体があり、呼び掛けに応じてみたいと思っており、申請はそれぞれに制約があるので、会の担当役員が調査中です。

私達の自然解説がマンネリ化してはいないか、各自の視点を時には思い切り変えてみる必要はないかが気になるところですが、次の記事は大変ショッキングてありました。

「湿原を食べる！」と言う演題で辻井達一教授が基調講演を行ったことです。  
(野生生物基金シンポジウム……北海道新聞 平成11年12月14日掲載)

要点摘記をすると、食べられる湿原の植物は、マコモ（米国で種子¥2500円グルメ味）、ガマ（雄花の部分はアスパラガスより美味、完熟したら花粉を除きパンケーキに交ぜて焼く、茎は茹でて食べる）、ツルコケモモの実（七面鳥料理のソースの必需品でビタミンCの補給用）、ホロムイイチゴの実（デザート、酒の材料）、エゾノリュウキンカ、タチギボウシの葉（くせがなく美味）、エゾカンゾウ（花が美味、中華料理に適）。

要約し過ぎたかもしれませんが、湿原の保護に半生を賭け、遂に世界の湿原として、認知させた辻井先生の功績は、多大なるものがあります。

本来ならば厳格に保護を強調するのあまり、指一本触れさせまいとする気構え

の堅苦しさが、逆効果を生むことを懸念して、全ての人々に愛される湿原であって欲しいという切実な願いを込めた作戦と読みましたが、如何なものでしょうか。上述は私達のガイドにも参考になりそうな感触を覚えたので追記してみた次第です。

新春の抱負にしては些カラフな感じもしますが、それぞれにご検討願えれば幸いです。

終わりに会の益々の発展と皆様方のご活躍を祈ります。



エゾユズリハ

キャンベンスローガン *自然との共存 21世紀に向けて!*

21世紀は人間社会が、いかに自然との共存を図っていくかが問われている世紀と言えましょう。私たちは自然の恵みをしごくあたりまえと考え、その結果として、自然を破壊してきました。

私たちの自然に対する良識を呼び覚ます運動をボランティア・レンジャーの活動を通じて、活発化していきましょう。

西暦2000年、21世紀の幕開けのためか、特別の感慨を受ける新年ですが、会員の皆様においても、本会においても良き年であります。

コンピューター誤作動にかかわる2000年問題が、昨年はいろいろ話題になり、その対策に多大な時間と経費を費やしたことが報道されていました。

私たちの生活がコンピューターなしには成立し得ないことを証明したこと、21世紀は、さらにコンピューター社会が複雑化していくことでしょう。

振り返って、営々と続けられている自然の営みは、人間に優しく接し受け入れてくれます。人間によって作り出されたコンピューターの存在とは、まったく正反対のふるまいをしてくれます。それ故、人間の傲慢なふるまいによって、自然は破壊されてきた歴史があります。

年の初めにあたり、自然との共存のありかたについて、実践方法を検討し活動していきたいものです。

## 10月以降の活動

- 10月17日(日) ・森林公園事務所主催「秋の森の観察会」協力参加  
集合 野幌森林公園大沢口(現10月11日)
- 11月14日(日) ・野幌森林公園ありがとう(ゴミ拾い)観察会  
集合 野幌森林公園大沢口(現11月7日)
- 12月2日(木) ・森林公園事務所主催「12月の森の観察会」協力参加  
集合 北海道開拓記念館(現11月25日)
- 1月13日(木) ・森林公園事務所主催「1月の森の観察会」協力参加  
集合 北海道開拓記念館(現1月6日)
- 1月20日(木) ・第3回役員会  
北海道環境サポートセンター 18:30~

# 会員の声

江別市 今野 義也

今年でボラレンになって8年になろうとしています。しかし、知識はさっぱり身につかず、後からボラレンになった人達にどんどん追いこされています。

なぜ知識が身につかないか自分なりに検討すると、観察会で諸先輩のように一人前の解説をしなければならないとおもい、あれもこれも覚えようとし、結局覚えきれず十分な解説ができない。だからまた、あれもこれも覚えようとする繰り返しとなる。だから今年は、春夏秋冬の季節ごとに、ひとつのテーマを決めて解説をやってみたいとおもっています。

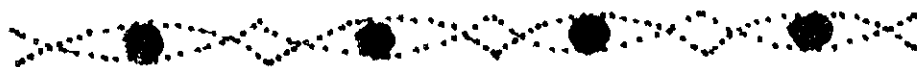
2000年を迎えて

札幌市西区 西尾 貞 敏

「十年ひと昔」とやら、私のボランティア活動も10年以上を過ぎました。昨年は道新フォレストウォーキングの苫小牧・北大演習林に2回、解説員として出かけました。下見の中で、まだ見たことのない木や草花に出会い感動しました。

まだまだ知らない事の多くを知りました。

今年は一兵卒として、道ボラの行事にも時々参加したいとおもっています。また、大雪山旭岳のお花畑に札幌のリズム体操とコーラスグループから解説を頼まれています。少し忙しそう。



札幌市白石区 渡辺 観 寿

お盆時の移動には及ばぬものの、年末年始、かなりの民族移動が例年通りあるが、一体どこへ行くのであろう。

休暇は、本来自然に帰るのが最も効果的である。人が木のそばに近づくことを「休」という字であることを知るべきである。

それにしても年々、山や木々が人工的に変容していくさまを見るにつけ、休みが本来の休みになりにくいのも理解できる。北海道が、日本の生産と休暇のベースキャンプになることを夢みるこのごろである。

丸瀬布町 佐野 亮 二

この冬のオホーツク地方は雪は少なめだが寒い日が続いています。湧別原野オホーツククロスカントリースキー大会が2月に開催されますが、走る人と手伝いのボランティアが一体となった楽しいイベントです。私も短いコースに参加しようと体力作りに野山を歩き回っていますが、数年前まではあまり見かけなかったエゾユキウサギの足跡をいっぱい見付けました。

ところが、キタキツネの足跡は少ないようでした。これも自然の中の一つの流れなのかと、自分なりに納得しながら歩いています。

旭川市 室屋 安 雄

昨年（1999年）9月、S氏の紹介で旭川市内のT小学校の野外学習会に誘われた。3・4年生の複式学級の子供達。元気一杯の歓声が飛び交う。私は「水を得た魚」の如く身体に熱流を感じた。

「黄色の花を探そう。」「赤色の花を見つけよう。」 イヌタデとオオイヌタデを持たせ「どこが違う」の問いに、ちょっと困り顔。虫めがねで茎を見せる。

「毛があった」「こっちには毛がない」 一件落着。



ボランティアレンジャーの喜びを感じた一時でした。

西暦2000年を迎えて

江別市 須賀 盛典

定職を離れ、ボケ防止と暇つぶし、そうして少しばかりの興味でボラレンになってから10年が過ぎてしまいました。この間ボランティアをするよりボランティアを受けた方が多かったが、自然観察会を通して様々な事を教えて貰い、自然のすばらしさと地球をとりまく環境問題の重要性を再認識させられました。

宮沢賢治の童話「グスコブドリの伝記」で「先生、気層の中に炭酸ガスがふえてくれば暖かくなるのですか」「あれが爆発すれば、ガスはすぐ大循環の上層の風にまじって地球全体を包むだろう。そうして下層の空気や地表からの熱の放散を防ぎ、地球全体を平均5度ぐらい暖かくするだろうと思う」と冷害の到来を心配するブドリとクーポ博士の対話がある。宮沢賢治が炭酸ガス濃度上昇と気候変化そして食糧生産について話を展開しています。

宮沢賢治の話は、今から数十年以上も前の童話の世界ですが現実の問題となっています。人間が豊かさと便利さのため、このまま炭酸ガスを出し続けると、2100年には地球の温度が約2℃高くなり、そのため海面が約50cm上昇すると言われています。いよいよ高度成長の付けがまわって来たのかと思うこの頃です。

西暦2000年は果たしてどんな年になるのでしょうか。野幌森林公園ではキタコブシが花芽を沢山つけています。春がまち遠しくなってきました。

江別市 阿部 徹

今年機会があって、職場である小学校校地内の樹木調べをしました。主なものをあげると、以下の種類になりました。

- ・ニセアカシヤ ・ヨーロッパアカマツ ・カラマツ ・ヨーロッパトウヒ
- ・オンコ ・シラカンバ ・プラタナス ・チョウセンヤマナラシ
- ・オニグルミ ・クリ ・イチヨウ ・トドマツ ・ナナカマド
- ・エゾヤマザクラ ・ニオイヒバ ・ノムラカエデ ・アオシダレ
- ・シンパク ・ズミ ・ヤマグワ、等々でした。

まだありますが、樹木数の多いのがこれらでした。調べてみて驚いたのが、外来種が結構多いことと野幌の土地本来の樹木の少ないことでした。

ここは先の大戦で、飛行場の滑走路があった所ですから、周囲の樹木を全部切り払っていたものと考えられます。だから、新しい学校を建てる時に新しい樹木を校地内に多量に植えたのでしょう。

今度樹木を植える時には、ハルニレ、ミズナラ、シナノキ、キタコブシ、ホオノキ、ヤチダモ、イタヤカエデ、エゾマツ、トドマツ、カシワ等の野幌の土地本来の樹木で、花や実が楽しいものの方が、子供達にとってもいいと感じました。

(江別市立対雁小学校 勤務)



ハルニレ

毎回、会員の皆さんに「会員の声」原稿を順にお願いしています。毎日の生活の中で感じたことを交流しあうことによって、誌上交歓ができるものですし、会報の大切なスペースと広報部では考えています。

会員の皆さんに是非このことをご理解していただき、ご協力をお願いいたします。

## 私の一名山 「早池峰」

札幌市北区 匿名希望

「エゾマツ」50号で、恵庭市の会員、小林英世氏の「私の一名山」を大変興味深く読ませていただいた。私も20年来、登山を趣味としているが、体力に自信がなく、ハードな山行はせず、チンタラ登山を繰り返している。けれども、登山は楽しい。山行の前日は子供のように興奮し、我ながらあきれているが、楽しいものは楽しいのである。

平成10年の夏に東北の山「早池峰」に登った印象が強く、あえて「私の一名山」として駄文を投稿した次第である。また、広報部にお願いであるが、是非このシリーズを会員に呼び掛け、継続してもらいたいものである。

東北、「花巻」は私の祖先の地であり、墓参等で数年に一度の割合で、花巻を訪れているので、「早池峰」は身近な山に感じている。地元の人々はこの山を信仰のやまとして崇めている。

花巻市街からは、この山をはっきり望むことはできず、また、登山をするため山に近付いても全体像を把握することは難しい。このアプローチは、花巻市街からバスで約1.5時間あまりの距離にあり、河原坊というところがバスの終点となるが、続く路をたどると、民話の里、遠野へぬけることができる。

河原坊からストレートに頂上に向かうことができるが、高山植物を楽しみながら、変化のある風景を堪能するには、終点から40～50分歩いた、小田越からの登山口をすすめたい。そして、下山は、河原坊にストレートに下るコースがよいと思う。この山の特徴は、1万年前白亜紀に隆起した北上山地の一角であり、隆起の際に古生層の堆積岩に貫入した橄欖岩が変化した蛇紋岩質の山なのである。このような性格の山は、道内では、夕張岳やアボイ岳がそうであり、共通して珍しい高山植物の宝庫でもある。

深田久弥著「日本百名山」の「早池峰」の項の冒頭に次の文がある。

「早池峰は東北では鳥海、岩手、月山につぐ高峰でありながら、案外世に知られていないのは、僻遠の地にあるためだろう。早池峰という響きのいい名前で、この山は早くから私の胸にありながら、その姿を撮った写真を見たことがなかった。盛岡の平野から遥かに見えるわけではないが、それは撮影にはあまりにも遠すぎる。また山の近くまで来るとその全容を美しく捕らえることができない…」

小田越の登山口から登り始めると、アオモリトドマツの大木の合間を30～40分登ると、突然視界が開ける。岩石が累々としている頂上へ向かうルートが望めて登山意欲をかき立てられる。

巨岩があちこちに見られると、ここかしこにお花畑が出現する。急な登りも気にならない。「竜ガ馬場」との名の所を登りきると、ハイマツと蛇紋岩がなんとも美しい場所である。

この場所を過ぎると、登りがきつくなり、岩場にとりつけられた、鎖と鉄製のハシゴがある。慎重に登りきると、もう一息で「剣ガ峰」へ続く稜線にでることが出来る。あとはお花畑のあい間をゆっくりと歩を進めると頂上はすぐそこにある。信仰の山の通り、頂上には塔婆状の板や剣が天に向けて立っている。

この山の固有高山植物として忘れてならぬのが、ハヤチネウスユキソウであるが、日本最大のウスユキソウでヨーロッパアルプスに咲くエーデルワイスの近縁種であると言う。

ウスユキソウ属は世界中におよそ30種以上分布していると言われるが、アジア大陸で多くの種類が見つけられていて、中国では漢方薬として使われているのである。北海道にもレブンウスユキソウ（エゾウスユキソウ）、オオヒラウスユキソウ、キリギシウスユキソウ等が分布しているのはご存じの通りである。

下山コースは、ストレートに下っていく。ガラ場を一気に下るので、あっという間に標高が下がっていくのがわかる。足下に気をつけながら岩場を下っていくと、コメガモリ沢の水場に着く。つめたい水がおいしい。

ここから沢沿いの道で、樹林の中を下っていく。沢の流れの音を聞きながら、

山行の充実感に満足しながら、川原坊の登山口に着く。登山口にはビジターセンターもあり、ウスユキソウの写真や説明を見ることもできる。

再び、深田久弥の「日本百名山」の「早池峰」を引用してみる。

「頭上に城塞のように巨岩が立ち並んでいる所まで達すると、もう頂上は近かった。岩の間を攀じて山頂に立つと、ただぼうぼうと乳色の霧が吹きすぎるばかり。ちょっとの晴れ間に、眼の下に気持ちのよさそうな原の拡がっているのが見えたが、それもすぐ閉ざされて、いくら待っても二度と晴れなかった。…」

東北地方、特に盛岡・花巻方面の山行の計画をお持ちの会員の方々、「早池峰」登山を是非実現していただきたい。

#### 登山路で見られた主な高山植物

- ・ヨツバシオガマ ・イワウメ ・ナンブイヌナズナ ・チシマアマナ
- ・ハヤチネウスユキソウ ・ミネウスユキソウ ・ミヤマアズマギク
- ・ミヤマオダマキ ・チングルマ ・コメツガ ・ミネズオウ
- ・イソツツジ ・イワヒゲ ・キンロバイ ・ミヤマキンバイ
- ・ハクサンイチゲ ・イブキトラノオ ・タチギボウシ ・イワギキョウ

(まだまだ沢山あったが、私の高山植物の知識はこの程度であった。)



# キーワード



## エキノコックス

冬の森を歩くと、雪のうえに動物の足跡が残っています。動物が活動すれば必ず足跡が残ります。特に冬では雪上にくっきりと現れます。この足跡から私たちは多くの情報が読み取れます。

冬の森の中での足跡でよく見られるのは、キタキツネでしょう。このキタキツネの歩行パターンは、ノーマル型（まっすぐに歩く）、テン型（斜めに2つずつ並んで続く）、ウサギ型（ウサギのギャロップに似る）のトレイルがあると言われています。

このキタキツネの話題として、北海道新聞、平成11年11月24日付の朝刊に「エキノコックス感染、本州に上陸」との見出しの記事が掲載されていました。感染ルートはどうかや青函トンネルにあるらしいとのことでした。

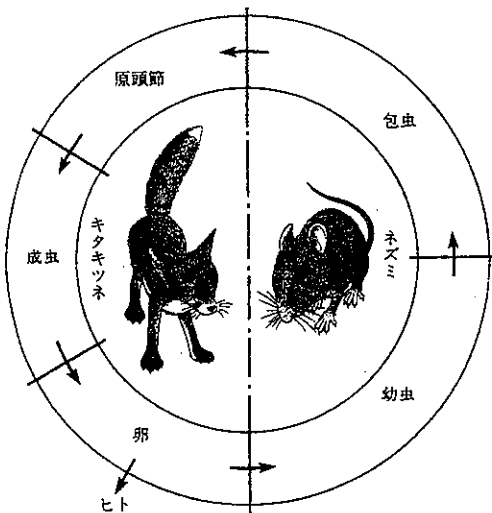
エキノコックスはアラスカのセントローレンス島が発祥の地と言われ、北から南へ地球規模で広がっていきました。人間が森林を切り開くと、キツネにとっても住みやすくなります。北海道でも先に人間が定住を広げた後、キツネやエキノコックスが広がりました。

寄生虫はふつう、宿主動物の体を出たり入ったりしながら繁殖を繰り返しますが、エキノコックスも同じです。しかし、ユニークなのは一世代の間に二種類の宿主を必要とします。それは、エキノコックスの幼虫がネズミに寄生し、ネズミを食べたキツネや犬に成虫が寄生します。キツネなどのふんに混じって自然界に出たエキノコックスの卵はネズミが食べてサイクルが完結します。キツネからネズミへ、ネズミからキツネへと、異なる二種類の動物を遍歴して初めてエキノコックスは繁殖できるのです。

エキノコックスの生態について、もう少し詳しく見てみましょう。エキノコッ

クスの卵は食べ物や飲み水に混じってネズミの口に入っていきます。卵はネズミの腸の中で幼虫になり、腸壁を食い破って肝臓にたどりつき、白いアブク状の「包虫」に変態します。包虫はヒモ虫の形はしていません。このアブクの内側に、やがて「原頭節」がたくさん作られます。原頭節は成虫の頭節になっていきます。このようなネズミがキツネに捕食されかみ砕かれれば、包虫のアブクも破れ、原頭節がキツネの口にこぼれだし、それがキツネの腸に食いつき成虫となっていきます。

人間がエキノコックスの卵を飲み込むと、包虫となり肝臓などにとりつき、ネズミの場合と同じようにアブク状に発達していきます。しかし次の宿主に移ることができないので、放置していると、やがてアブクの塊は中心部が壊死したようになります。けれども壊死したと見えた包虫は実は死んではいなくて、破れたアブクの中からこぼれた原頭節が血液の流れに乗り、ほかの臓器に到着すると、そこに再定着・再発達することがあります。これを「二次包虫」といいます。エキノコックスがガンのように転移するといわれるのはこのことを指しています。



北海道ではこれまでにエキノコックス症に390人が感染、道外の感染者は76人で、このうち50人が道内や海外を旅行中などに感染したと見られています。青森県は北海道に次いで感染者が多く21人だそうです。感染者がいても媒介動物によるエキノコックスのサイクルが確認されなければ流行地（汚染地区）とはいえず、現段階では北海道だけが流行地（汚染地区）になっています。

参考 北海道新聞 1999. 11. 24付 朝刊

北海道ワイルド・リポート 平凡社

# トリカブトの話

札幌市西区 川端 功治

山菜採りのシーズンになると、良く話題になる「トリカブト」は、「ニリンソウ」と葉の形ちが似ているので、山菜として誤採されないように、新聞や季刊誌に警告が賑やかなので、名前だけは広く知られていますが、肝心の「ニリンソウ」を好んで食べようとする山菜愛好家が減ってしまったので、誤食事故の話題は希有となったのは案ずるよりは、生むが安しの類でしょうか。

それでも「トリカブト」とはどんな草ですかと良く聞かれるのは社会問題として大きく紙面を占める毒殺事件の毒薬の種類の中に、「トリカブト」が時折登場するからでありましょう。しかもドラスチックな話題性に富むのはその成分の効用に原因があるように思われます。

まず「トリカブト」の語源は烏兜で、舞楽の装束のかぶりものであって、花のかたちが、その兜に似ているので名付けされたことになっています。

その成分は全草、特に根部に猛毒であるアコニチン等を含み、中枢神経をマヒさせる中毒死は呼吸マヒが主な原因とされています。人の致死量は3-4mgとされ、従ってトリカブトの根の部分の僅か0.1gで致死量に近い事になります。

しかも悲劇の起きる誘因の一つに、(粉末ブシ)と称し、漢方薬として販売され、神経痛、リュウマチの鎮痛剤として服用(加水分解して無毒化)され、また不老強精剤としても珍重されてもいるので、その馴染み安さが原因と思われま

す。植物学者として有名な白井光太郎博士がその効用を褒め讃え、自らも愛用していたが、ある日突然に死去してしまった。単に薬物の中毒死とされましたが、高名な科学者が、いい加減な計量で安全量を間違えたとは思えない。素人の推理を許して貰えば、誰でも思いつくのがアコニチン等の猛毒物が、僅かずつながら体内に蓄積して、ある日突然に安全許容量を超えたのではないかと云う疑いです。

それから薬用として市販されているものは、指定した分量を厳守して服用する



限り安全であるように加工処理されている筈であります。もしも「トリカブト」の成分そのものを安全加工されないまま、服用した場合、志気高揚、元氣潑刺、愉快と快感の体に変身するとすれば、白井博士の愛用の理由と突然の死去の原因が凡そ想像出来るが、これはあくまで素人の稚拙な推理で、御放念願います。

アイヌ民族にとって「熊（ひぐま）」は神様が下された贈り物であつて、有り難く毛皮や、肉、内臓を頂戴して、魂を神様に送りかえすのが熊祭（飼育した小熊を祭る）や熊送り（仕留めた親熊）で、厳肅な行事であると同時に生存の為の食料確保が裏腹になっているので、「トリカブト」の毒は極めて重要な存在であります。

しかしながら「トリカブト」は変種が多く研究者諸先生が同定に難儀することで有名ですが、その毒性に強弱差があるので、アイヌにとつて獐猛な熊と生死を分ける闘いを展開するから、猛毒な「オクトリカブト」は珍重され、その植生地の争奪を巡って、激しい民族の内紛があつたことを歴史が伝えています。

ヨーロッパの民話、伝説にも「トリカブト」が活躍しており、敵の侵攻を阻止する為に、井戸や泉に投入した記録があり、狼を退治する為に「トリカブト」の根を混ぜた餌を、仕掛けた等は納得させられますが、サソリの刺傷には「トリカブト」の毒を使えとあります。「毒には毒を以て制すべし」と諺にあるからだ、としているが、諺だけでは、いささか心もとない話ですが、この草を練り込んだ軟膏を塗ると、空中を飛ぶ魔女になると云う伝説は超別格の話で、おそらくは毒薬の作用で起きた幻覚症状が遊泳する魔女を連想させたものだろうと思います。

旧聞になりますが御主人に多額の生命保険を掛けて、毎日の食事に微量の「トリカブト」の根を混入し毒殺を図った奥さんが居たことが報道されました。殺人鬼と化した奥さんの生活環境や、人道から転落した経緯はニューズバリュウがあると思いますが、それよりも毒の盛り方に注目して居たところ、案のじょう、プロの、手ほどきをうけたらしく微量からスタートして、順化を謀りながら増量する手口でした。奥さんに保険を掛けて、ひと儲けを企む古来からの美風？遂に廃れたか、と嘆いた男がいたとか。冗談にしても度が過ぎます。

道央では銭函付近のトリカブトの毒性が最も強く、紛争のターゲットになったようです。狙いは倒卵形紡錘状塊根に着生した子供の塊根にあり、これを乾燥したのが烏頭（ウズ）と云う漢方薬にあります。商品は中国で栽培されたものが多く、野生のものは（クサウズ）と称して別扱いになっていおります。

この親芋に着生した子芋は附子（ブシ）と称し、8月に採取したものが最高に毒性が強く、その価値を試す時にはナイフで削ると、ピンク色の断面が忽ちのうちに黒変するその速さで、価値が判断出来るとアイヌ人は伝えています。

そしてこの猛毒は熊の体内を駆けめぐって最初の傷口に戻り固まるから、その部分を抉り取って仕舞えば、安全な食肉になるのだとアイヌ人は云います。

薬理の関係者はアコニチンは加水分解で無毒にする事が出来ると肯定しているから誠に理に叶い神様は、自動的に無毒になる猛毒をアイヌに贈ったことになります。

山菜取りの方々から安全な「ニンソウ」俗名フクベラと「トリカブト」の区別方法を質問されるが簡単な方法は有りませんかとせがまれると「白い花を確認下さい」とアドバイスしますが、大振りで厚手の葉は要注意と付け加えております。

以上のことを整理してみると、気に掛かることが残りました。星が一杯の夜の空を、帯に跨がり飛ぶ魔女の颯爽とした姿を想像してみました。この爽快感は大麻、阿片、覚醒剤の乱用による幻覚の世界に通ずるものではないか。白井博士が他人にも勧めた理由の滋養強精爽快は何となく理解できます。

最初は微量でも次第に慣れて、効果の低下を増量で補う誘惑に駆られる様になると、お定まりの生きた屍に転落する姿が目に見えるようであります。

このような恐ろしい毒を持った「トリカブト」が市内の薬局で手に入ると云うので尋ねて見たら、今は取締りが厳しくズバリそのものは絶対に売られていない筈だと云う。しかし腰痛、神経痛、膝痛、リュウマチ、に大変好評なので薬局各店では「トリカブト」の根（ブシ）を粉末にして、無毒化加工して漢方処方されたものは売っていますとのことでした（薬品名イレイサー）（ブシ粉と他薬五日分980円）

これで観察会では、サラリと「これは、猛毒な草ですから要注意」とだけ云つて、通り過ごすことにしました。あまり関心や興味を持たれても困りますので、苦肉の行動です。

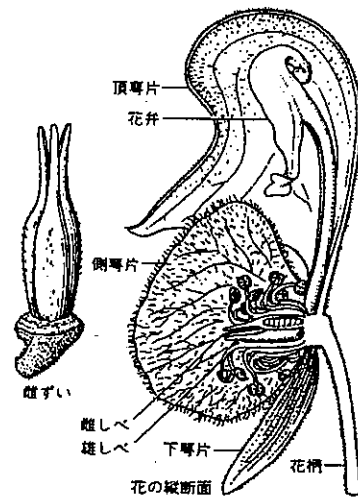
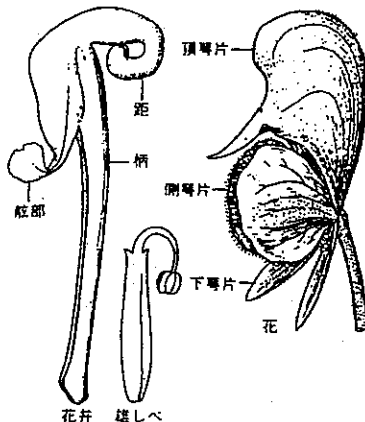
「エゾトリカブト」は道内に広く分布していることは周知のことで格別取り上げることも無いと思いますが、猛毒でアイヌ民族の文化史に関わりのある「オクトリカブト」には大いに関心を持ったほうが、何かと勉強になります。

ヨーロッパの民話に活躍するのも「オクトリカブト」で、アイヌ民族史にも重要な役目を果たしていることは白色人種と云うか、肉食人種と云うか、食料獲得手段が共通しているところに興味があります。この種の道南産、特に銭函ものは猛毒で有名ですが、定山溪産に無毒のものがあるらしく、全道的に見れば20種を越える変種があるようで、会員各位の活躍で是非とも明確にして、本紙に発表されることを期待しつつこの稿を終えます。

## 記

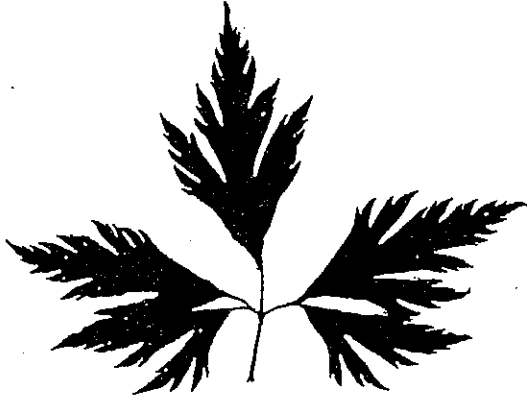
### \*トリカブト属の花の構造図

左図の金槌状のものが  
花弁で、兜状の頂萼片  
の中に、内蔵されてい  
ることに注意。



トリカブト属[Aconitum]の花の構造  
ex. キタヤマブシ[A. japonicum var. eizanense]

## エゾトリカブト



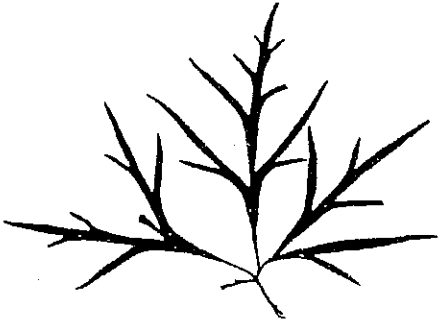
- \* 茎は直立しないで曲がる傾向がある。
- \* 茎の上部に曲がった毛がある。
- \* 葉は3全裂し、さらに側小葉が2深裂。葉の両面の脈上に曲がった毛がある。
- \* 花梗や雄ずいに毛がある。

## オクトリカブト



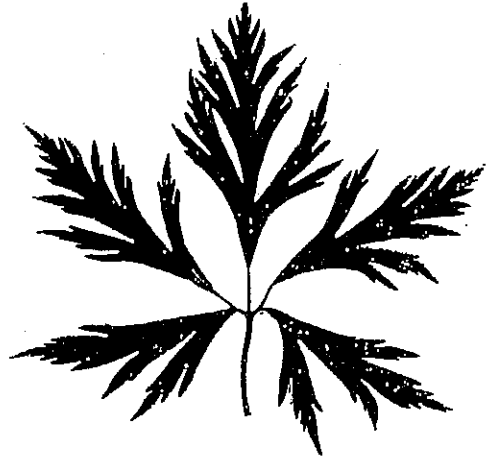
- \* 茎に屈毛密生する。
- \* 葉は5中裂し、葉脈に添って屈毛があり花柄にも密生する。
- \* 雄ずいの上部に毛があり、雌ずいの縫合線上に白い屈毛がある。

## セイヤブシ



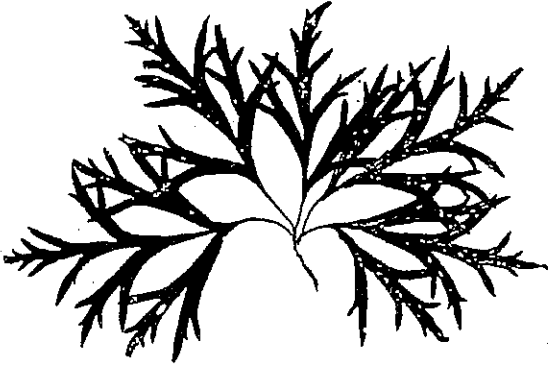
- 茎上部に曲がった毛がある。
- \* 葉は3全裂し、側の2小葉は更に2深裂する。
- \* 花柄や雄ずいに曲がった毛がある。
- 蛇紋岩沼沢地帯産。(問寒別)
- \* 北大伊藤誠哉氏の名前にちなむ。

## テリハブシ



- \* 茎直立。
- \* 葉は厚手。
- \* 花序は円錐状。

## カラフトブシ



\*茎直立し曲がった毛がある。

(除下部)

\*葉は全裂し、側2小葉は深裂する。

\*花柄、花冠に曲がった毛がある。

\*雄ずいには密毛がある。

\*道北の低地湿原産。

## シレトコブシ



\*茎の上部に曲がった毛がある。

\*葉は3全裂し、側裂片は更に2深裂する。

葉の裏面の脈上に、曲がった毛がある。

葉柄にも曲がった毛がある。

\*花柄、花冠には絨毛があり、雄ずいにも毛がある。知床半島産。

### 追記

資料不足で掲記出来なかった次の種は別の機会に譲りました。

\*ヒダカトリカブト

\*エゾノホソバトリカブト

\*ダイセツトリカブト

\*ウスバトリカブト

\*ケミノカラフトブシ

\*ココカラフトブシ

\*図形の葉型は栽培品のコピーで縮小倍率は三分の一(長さ)一概算一。

### \*参考図書

コタンの生物記 更科源蔵著 北方出版社

北海道の薬草 三橋、山岸共著 北海タイムス

日本の野生植物 佐竹他共著 平凡社

以上



村野 紀雄 著

自然ガイド 野幌森林公園

北海道新聞社 1999. 10. 28 新

定 価 1300円+税

野幌森林公園は、1968年（昭和43年）に北海道開拓百年を記念して造られ、北海道立自然公園に指定された大変貴重な植物群を持つ森林公園です。

本会の前副会長（前事務局長）で現在顧問の佐々木幸夫氏は広報誌「エゾマツ」47号で野幌森林公園について、「…野幌の森も、アオサギの営巣放棄やアライグマの増殖、人々の写真撮影や山菜採りて変化しつつある。それにしても公園内の高等植物出現種数は733種を数え、うち68種が帰化植物と生物構成に変化が見られるが、これに登載されていない植物に、過去に国立林業試験場がった名残の見本林樹種や森林公園としての植栽樹種を加えると、優に800種を超える種数は、大都市近郊森林としてのオーストリアのウィーンの森、フランスのパリ郊外にあるフォンテンブローの森に並ぶ要素を持つ。…」と述べています。

この野幌森林公園事務所にかけて携わっていて、現在、酪農学園大学教授の村野紀雄氏によって、読んで見て楽しめるガイドブックが出版されました。

前書きに「ここには北海道中央部低地に残された森林性の生物が多く生活しています。一見静かな森のたたずまいの中で、一本一本の樹木ばかりではなく、可憐な草花や小さな昆虫に至るまで、沢山の生物が互いに関連しながらダイナミックに活動しています。この本はそうした生物たちのおりなす四季のたよりです。」と書かれていますし、一年の月を追って写真が整理されています。

ところで、私たちの会で、設立10周年を記念して作成した、野幌森林公園自然観察ガイドブックを改めて読み直してみました。決して手前味噌ではありませんが、私たちが作成した冊子の内容に自信をもった次第です。

野幌森林公園について色々な角度から冊子が出されると、この貴重な野幌森林公園についての啓発につながっていくことにもなり、大変喜ばしいことです。

## 事務局より新会員の紹介と会員名簿の訂正のお知らせ

会報第 50 号に今年度の新会員を紹介しましたが、その後、新たに入会された方の氏名と住所は次の通りです。

宜しく願い申し上げます。

氏名	〒	住所	電話
安部 愛治	098-1421	紋別郡西興部村字上興部 93	01588-7-2673
橋場 俊子	066-0037	千歳市新富 3-14-6	0123-24-5892
菅原 信夫	002-0861	札幌市北区屯田 11 条 1-5-10	011-772-3292

### 会員名簿の訂正

先に配布しました会員名簿に次の方に間違いがありましたので、お詫び申し上げますと共に、お手数ですが訂正をお願い申し上げます。

訂正

- 52 桜井 洋子 060-0006 札幌市中央区北 6 条西 20 丁目 1-20-1102  
53 桜井 明 060-0006 札幌市中央区北 6 条西 20 丁目 1-20-1102  
68 佐藤 雅之輔 061-2283 札幌市南区藤野 3 条 11 丁目 10-11-1020

網かけの部分が訂正箇所です

事務局では会員の皆様方の名簿作りに細心の注意を払って作成して参りましたが、それでもまだ、このような間違いがあり、上記の皆様には誠に申し訳なく、お詫び申し上げます。

尚、その他で間違いなど有りましたなら、事務局まで連絡をください。

北海道ボランティア・インジャー協議会事務局

〒061-2284 札幌市南区藤野 4 条 7 丁目 2 7 7-7 4

佐藤 健一

電話 FAX 011-592-4222

# 観察会研修会 情報

《平成11年度（1月～3月）開催・協力予定の自然観察会》

## ◎1月の森の観察会

1月13日（木） 10:00～12:00

集合場所 北海道開拓記念館前

## ◎野幌の冬の森観察会

2月27日（日） 10:00～12:00

集合場所 北海道開拓記念館前

## ◎冬の森の観察会

3月26日（日） 9:30～14:00

集合場所 野幌森林公園大沢口（昼食の用意）

## その他の団体の自然観察会

◎1月18日（火） さっぽろ自然散歩（札幌豊平公園）

問い合わせ 自然ウォッチングセンター（TEL 011-736-3165）

◎1月23日（日） 探鳥会（札幌円山公園）

問い合わせ 日本野鳥の会札幌支部（TEL 011-613-7973）

◎1月26日（水） 冬芽とツル性の木観察会（西岡水源地）

問い合わせ 自然体験塾（TEL 011-682-0874）

会員の参加協力で観察会を充実させましょう！



## 編集後記

◆2000年、平成12年が始まりました。会員の皆様とボランティア・レンジャー協議会にとって、よりよい年になることと確信し、自然との関わりを各自の行動の中で確かなものとしていきましょう。

◆今年の干支は辰（竜）です。インド神話では、竜は蛇を神格化した人面蛇身の半神であると言われ、雲雨を自在に支配する力を持つとされています。私たちも今年は辰（竜）にあやかりたいものです。

◆前号から始めたシリーズ「私の一名山」、今回も投稿（匿名希望）があり、広報部は感謝しています。このシリーズは会員の皆さんの協力によってぜひ継続していきたいと考えています。山に登らずとも、日常の生活の中で望める身近な山の想いや情景についても投稿してください。

◆平成11年の活動はご存じの通り3月で終了です。各部の活動もまとめの期間に入ってきました。広報部では「エゾマツ」の編集作成のあり方について、反省し次年度へつなげていきます。広報部ばかりでなく、各部への忌憚のない意見をお寄せください。

北海道ボランティア・レンジャー協議会

会報誌「エゾマツ」51号 2000.1.15 発行

発行責任者 大友 健

(表紙絵 広報部 三崎 篤)

